

「東日本大震災からの教訓、これからの新しい国づくり」

シンポジウムのご案内および一般講演の募集

2011年3月11日に我国を襲った東北地方太平洋沖地震（M9.0）による東日本大震災は、科学・技術が進み、耐震工学にも十分な注意が払われていたと信じられていた日本に再び甚大な災害を引き起こしました。既に半年以上が過ぎましたが、復旧復興の道のりはまだまだ遠いと言わざるをえません。この震災は東日本だけでなく日本全体に大きな傷跡を残しましたが、とくに建築やまち作りに携わる人々に学ぶべき多くの教訓を残しました。

日本は美しい海に囲まれ南北に連なる島国であり、急峻な山々と森林、美しい湖や川があり、自然の豊かな素晴らしい国です。ただ、このたびのように大地震、大津波に頻繁に襲われ、巨大台風、豪雪、崖崩れなど自然の猛威の厳しい国でもあります。

このたびの災害は、過去に大きな津波被害を受けていることが分かっている地区に、津波への注意を払わないまちや村を作ってきた人々の問題です。まちづくりや都市計画の問題であり、一つ一つの建築物を作ってきた住人、設計者、施工者、行政、これらを見過ごしてきた我々全員の問題です。日本人はどこに住んで何を糧に生きるかに戻って考えなければなりません。

原子力発電所の破壊は日本人だけでなく世界の人々に衝撃を与えました。エネルギー資源のない日本がこれからの文明をどの方向に進めるべきか多くの人々が悩んでいます。これだけでなく、日本には少子高齢化、元気のない地方と大都市集中の問題があり、人々の生活スタイル、海外に負けない日本の産業、持続可能な社会、災害に負けない社会や国づくりなど、すべてを考えなければなりません。

このたびの地震は東日本だけでなく、遠く大阪の建物まで大きく揺らしました。震源地に近い岩手県、宮城県、福島県、茨城県などでは、今までの地震被害と同様の揺れによる被害もあり、天井や内壁、さらに外壁の落下など、二次部材の被害の多さも問題になっています。千葉県に頭われた地盤の液状化は住人にとって大きな問題です。基礎構造の問題ともいえますが、敷地選びの問題でもあります。3月11日の東京の一日の大混乱と帰宅困難者をみると、都市をどこまでも大きくし、人口や機能を集中しているが、大丈夫なのかと誰でもが考えます。

個々の建築物はそれぞれ個人、私企業または公共などの所有物です。ただ、この建設にかかわる技術は時代毎におおよそ同じ土俵の上ののっており、地震時の建築物の応答や挙動、軽から重にわたる各種の損傷や被害にはそれぞれ共通点が多くみられます。これらの情報を個人や組織の枠を超えて極力共有化し、よりよい技術開発に役立てることが必要です。

次に考えなくてはならないことは、日本の他の地区を襲う次の大地震です。このたびの災害の教訓をもとに次の大地震に備えて、建築物の耐震性の確保、二次部材の崩落防止、津波への対策などをしなければ、知恵のある人間とはいえません。

このシンポジウムの初日（3月1日）には、建築会館ホールを用いて、日本建築学会の一年間の調査活動および復旧および復興に関する支援の報告、日本建築学会から今後の研究にかかわる提言の発表、他学会の一年間の活動報告などを計画し、2日目（3月2日）には建築会館の3部屋を用いて、一般講演を計画していますので、研究や活動の発表を公募致します。有意義なシンポジウムになると期待しています。

日本建築学会会長 和田 章

主 催：日本建築学会

後 援：空気調和・衛生工学会、建築設備技術者協会、地盤工学会、土木学会、日本機械学会、日本建設業連合会、日本建築家協会、日本建築構造技術者協会、日本建築士会連合会、日本建築士事務所協会連合会、日本鋼構造協会、日本コンクリート工学会、日本地震学会、日本地震工学会、日本造園学会、日本都市計画家協会、日本都市計画学会、日本免震構造協会
(予定、五十音順)

開催日：2012年3月1日(木)、2日(金)

会 場：建築会館ホール、建築会館会議室(東京都港区芝5-26-20)

プログラム(概略、予定)：

3月1日(木) 活動報告・招待講演(於：建築会館ホール)

- ・東日本大震災調査復興支援本部の活動
- ・2011年東北地方太平洋沖地震災害調査速報
- ・建築の原点に立ち返る－暮らしの場の再生と革新－東日本大震災に鑑みて(第一次提言)
- ・主に日本建築学会に関わる復興支援活動の報告
- ・非構造材の落下事故防止及び解消に関する特別調査委員会の報告
- ・巨大災害の軽減と回復力の強いまちづくり特別調査委員会の報告
- ・広域巨大災害と大震災に備える特別調査委員会の報告
- ・他学会の動きの紹介
- ・行政(国・地方)の活動などの報告、等を予定

3月2日(金) 一般講演(於：建築会館会議室)

- ・3部屋同時開催による一般講演

3月1日(木)～4日(日) 画像・映像の展示(於：建築博物館ギャラリー)

- ・画像・映像などを展示

参加費：A) 一般講演者(投稿料、両日のシンポジウム参加費およびシンポジウム梗概集代)

会員 5,400円、学生(修士まで) 4,500円、会員外 10,000円

B) シンポジウム参加者(両日のシンポジウム参加費およびシンポジウム梗概集代)

会員 4,000円、学生(修士まで) 3,000円、会員外 6,000円

*シンポジウム梗概集：3/1の活動報告・招待講演の梗概および3/2の一般講演の梗概を収録。

*参加費のお支払：クレジットカードの利用を予定(詳細未定)。

*一般講演者の場合、梗概の投稿時に上記の参加費を支払うこと。

一般講演 応募要領

1. 発表資格

- ・発表資格は問わない。所定の参加費を納めた者とする。

2. 発表内容

- ・東日本大震災に関連する内容とする。
- ・多くの情報交換・研究交換を目的にしているので、本学会にかかわらず他の学会のシンポジウム・論文集などで発表した内容、さらに今後に発表予定の内容でも良い。

＜課題、キーワード、テーマなど＞

学問の進化、技術の進展により、研究分野や技術はますます細分化されていく。このたびの大震災はこの細分化、その枠を超えた議論の少なさが起こしたと考えることもできる。ここに示す課題、キーワード、テーマなどは、例として示したものであり、それぞれの分野の中で議論が深められることは重要であるが、これらを繋げる考察、考え方、さらに総括的な考察や研究も必要である。

- ・地震動、設計用地震動
- ・津波の被害と対策
- ・建築物・構造物の地震被害調査研究
- ・構造物の挙動と今後の設計
- ・耐震改修
- ・二次構造物の被害と対策
- ・災害弱者・少子高齢化への対応とコミュニティ
- ・文化の継承、歴史的建造物の被害
- ・1000年に一度のような極めて稀に発生するハザードへの対応
- ・地盤の被害調査、液状化
- ・都市の被害、都市計画
- ・集落被災、集落復興、高所（高地・高台）移転
- ・国土計画、地方と都市
- ・まち作り、復興支援
- ・建築設計・計画（仮設住宅、支援施設ほか）
- ・情報通信システム
- ・原子力関連施設、エネルギー問題
- ・その他

3. 執筆要領

梗概原稿はA4判4ページとし、1ページ目と4ページ目は、それぞれ本会大会梗概の1ページ目と2ページ目と同一形式とする。2ページ目と3ページ目は、大会2ページ目の脚注のない形式とする。

(1) 用紙設定

横書き2段組とし、ワープロソフト等で上マージン25mm、下マージン22mm、左右マージン15mm、1段を87mm（段の間隔6mm）、1ページあたり48行、1段あたり25文字を基準（文字の大きさ9.5ポイント相当）として設定する。なお、この基準から大きく逸脱した原稿は、執筆要領に反するものとして不採択となる場合がある。

(2) 文字

和文はJIS第一水準、第二水準の漢字を使用する。本文書体は、和文では明朝体、欧文ではTimes New Romanを用いることが望ましい。

(3) 記載方法

＜1ページ目上段＞

- ・1ページ目上段に表題、会員種別・発表者名、キーワード（3～6個）の順に記載する。
- ・表題は第1行に、本文より大きな文字で書く。
- ・会員種別・発表者名（連名の場合は講演発表者を筆頭に記し、氏名の前に○印をつける）は上段右側に寄せて書く。
- ・キーワードは上段左側に寄せて書き、キーワードと本文の間は1行あける。

＜1ページ目下段（欧文表題・欧文発表者名）＞

- ・記載欄と本文の間に罫線を引く。
- ・欧文表題、欧文発表者名の順に記載する。

- ・欧文表題は左側に、欧文発表者名は右側に寄せて書く。
- ・欧文講演発表者名はローマ字で姓・名の順に記入し、姓はすべて大文字とし、名は頭文字のみ大文字とする。

<4 ページ目下段（和文所属・欧文所属）>

- ・記載欄と本文の間に罫線を引く。
- ・和文所属（・学位）、欧文所属（・学位）の順に記載する。
- ・和文所属は左側に、欧文所属は右側に寄せて書く。

(4) 図表および写真

図表および写真は適当と思われる場所にレイアウトする。

(5) テンプレート

Microsoft Word（Windows 版、Macintosh 版）のテンプレートをホームページ上で提供する。

(6) 著作権

著作権は著者に属し、本会は編集出版権をもつ。

4. 日 程

(1) 2012年1月10日（火）17:00 までに、

<https://www.gakkai-web.net/gakkai/aij/sympo0301/> から投稿する。

注）梗概の投稿数、専門分野別の数など事前に予測ができず、場合によっては会議室の追加が必要になる可能性もあり、プログラム作成および当日の円滑な運営のためにも、梗概の投稿状況を事前に把握したい。投稿を計画される場合は、可能な限り 2011 年 11 月末までに「表題（予定でも可）、キーワード（複数可）、発表者の氏名・連絡先、共著者名等」を、上記サイトから知らせてほしい。

(2) 2012 年 2 月中旬までに採否・プログラムを通知する。

(3) 採否の決定はシンポジウム実行委員会が行う。以下に該当するものは不採択となる場合がある。

- ・梗概の説明が著しく不十分なもの。
- ・内容が商業宣伝に偏したもの（商品名の使用には注意すること）。
- ・他者を誹謗中傷する内容を含むもの。
- ・応募要領、執筆要領に反するもの。

5. 発表要領

- ・発表は一人あたり 1 回とする。
- ・著者はシンポジウムにおいて発表を行い、質疑応答を受ける。
- ・発表には、PC プロジェクターを使用する。
- ・発表時間は 1 題あたり 15 分（質疑 5 分を含む）を予定しているが、発表件数に応じて、発表時間の短縮・延長もあり得る。

<シンポジウム「東日本大震災からの教訓、これからの新しい国づくり」実行委員会>

委員長：新宮清志（日本大学）

幹 事：岡田 章（日本大学）、竹内 徹（東京工業大学）、長谷見雄二（早稲田大学）、

委 員：居駒知樹（日本大学）、宇野 求（東京理科大学）、大崎 純（広島大学）、
小林英嗣（北海道大学）、後藤 治（工学院大学）、定行まり子（日本女子大学）、
佐土原聡（横浜国立大学）、塩原 等（東京大学）、田中礼治（東北工業大学）、
登川幸生（日本大学）、時松孝次（東京工業大学）、中島正愛（京都大学）、
中林一樹（明治大学）、平石久廣（明治大学）、布野修司（滋賀県立大学）、
源栄正人（東北大学）